

# 全国ネット通信

2016 秋号 Vol.24  
平成28年10月1日発行

デザインしよう。地球とつながる素敵な暮らし。

慶應義塾大学大学院特任教授 小林 光

地球温暖化防止全国ネットの総会で講演する機会があった。私は、国民、一般の生活者が、経済社会の主人公として、世の中全体を低炭素なものに変えていくべきだ、また、できるはずだ、といったお話をした。世の中を単純に見てみると、そこには供給側と需要側があり、それらが出会う市場があって、世の中を変えていく力はこの三者に宿っているが、私としては、まず国民こそがリーダーシップを取ってほしいと思っている。そのような発想で、エコハウスとか、金融商品の選択など、国民のできることに関してお話をした。

もちろん、私のような主張に対して批判があるのは知っている。いわく、製品やサービスのスペックを決めるのは供給者側であるのにもかかわらず、国民が決定権を持っているかのごとく見せるのは、問題のすり替えであって、さぼっている供給者を免責するものだと、いわく、国民が賢い選択をしても、チリが積もるような効果しかなく、場合によっては知恵の回らないところで大チョンボをしてかすかもしれない、といった批判である。けれども真実は、需要と供給の両者の意思が合致してこそ、世の中が変わっていくのであって、それそれが変化しないといけないのであるが、その場合に、有害なのは、「先に変わるべきはあちら様である」と、他人にイニシアチブを押し付け自分は何もしないで逃げてしまうことである。私は、そこをこそ変えたいと思っているのであり、別に供給側を免責したいと思っているのではない。むしろ変化は互いの共進化へと発展し、内発的なステップアップが双赢に進んでいくに違いない、とにらんでいる。

需給の共進化の一番身近な例は、ラーメンであろう。お客様の舌が肥え、ラーメンの味も値段も良いものになった。今や、世界各地に進出し、ミシュランガイドに載るまでに進化した。環境の分野では、古く

は無リン洗剤が、消費者が育てた商品の例であり、近くは、固有名詞を挙げて恐縮だが、プリウスのように熱烈な支持者がいるお陰でその性能がどんどんと良くなっている商品もあって、これが共進化の典型例の一つであろう。環境に良いことをするという価値に対して消費者がお金を払ってくれる用意があれば、供給側もそれに応え、どんどんと性能を上げ、ストーリーを作り込む、そうした好循環をどんどん生んで、世界に広がりつつある環境市場で、日本がリーダー役を果たしたいものである。

この4月、このような発想で、木楽舎という出版社から「地球とつながる暮らしのデザイン」を上梓した。メーカーに働く人も、大学の先生も運動団体の人も、合計50人の方々に、需要側として実行可能な、環境を良くする行動のアイディアを寄稿するようお説いたが、皆さま快く賛同してください、沢山のヒントを盛った立派な本ができた。ぜひ、ご参照いただき、生活者の今よりちょっと賢い行動が世の中をより良いものに変えていく起爆剤になることに得心していただければと思う。生活者としての国民こそ、世の中の主人公である。一緒に良い世の中を創りましょう。



# 地域センターの活動実績調査を実施しました!

地域センターは、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき地球温暖化対策に係る普及啓発活動等を行う唯一の拠点として、全国58ヶ所でさまざまな活動に取り組んでいます。

このたび、全国ネットは地域センターの協力をいただき、地域センターが国民に対して、地球温暖化防止に係る普及啓発活動をどれだけ実施できるのか、その底力を示すことを目的に、平成27年度の事業を対象に活動実績調査を実施しました。現在、「全国の地域地球温暖化防止活動推進センター活動事例集(仮称)」(以下、地域活動事例集という。)として取りまとめを行っています。今回は、その中から一部データをご紹介します。

平成27年度に地域センターが実施した事業数は、合計で385件となりました(図1)。また、地域センターが実施した事業を主要なテーマごとに見ると、省エネに関する事業が最も多く、次いで温暖化問題、環境教育、再エネが続き、地域センターがさまざまな角度からCO<sub>2</sub>削減につながる事業を実施したことが分かります。次に、平成27年度の地域センターの活動実績を見ると、普及啓発を実施した人数、いわゆる動員数は、延べ約300万人、団体数は延べ約7千団体となりました。また、連携事業者数を見ると、民間企業との連携が最も多く、次いで学校、自治体、NPOが続き、延べ約1万団体と連携・ネットワークを構築して事業を実施していることが分かりました(図2)。

昨年からCOOL CHOICE(賢い選択)国民運動が推進されており、先日、環境省より国民運動の基本理念や計画期間、具体的な指標及び目標等を定めた「地球温暖化対策のための国民運動実施計画」(以下、実施計画という。)が発表されました(表1)。実施計画では、目標達成のために実施する措置の一つとして、地域センター等との連携・協力を推進することが明記されており、地域センターの活躍が期待されています。

今回の調査結果から、地域センターの普及啓発に係る豊富なノウハウやさまざまな団体と連携してきたことによって構築されたネットワークを活用し、地域における国民運動推進の拠点としてその存在意義をアピールできると考えます。また、今回明らかになった地域センターの活動によって普及啓発活動を実施した人数から、賛同者数600万人、賛同団体数40万団体など、実施計画に定められている目標達成に大きく貢献できるものと考えます。地域活動事例集では、このように地域センターのさまざまな活動データを数値で示すほか、58の地域センターが実施する、地域ならではの活動、幅広いネットワークを構築した活動、たくさんの市民や団体を巻き込んだ活動など、特徴的なものの紹介や、地球温暖化防止活動推進員または地域センターのスタッフなど、地域の温暖化防止活動を支えるキーパーソンの活動を、写真付きで紹介することとしています。

地域活動事例集をもとに、国をはじめ地方自治体や民間企業等に地域センターの底力をPRすることで、地域での地球温暖化防止活動の促進につなげていきたいと考えます。

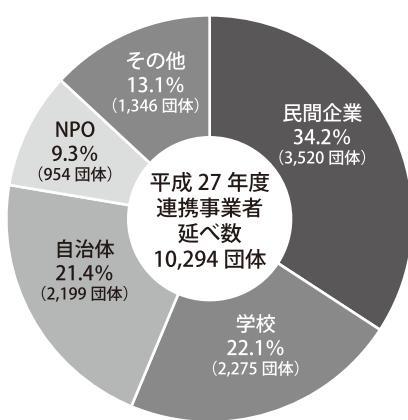
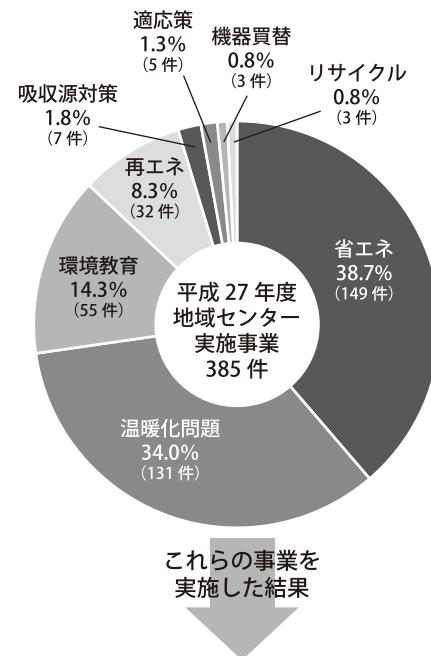


図2 平成27年度団体種別連携事業者延べ数



普及啓発等を実施した人数  
延べ約 3,000,000 人

普及啓発等を実施した団体数  
延べ約 7,000 団体

図1 平成27年度に地域センターが実施した 主要なテーマ別※1 の事業数及び動員数

表1 実行計画第1期計画(2016～2020年)における個別目標※2

項目	数量
「COOL CHOICE」の認知度	50%以上
「COOL CHOICE」の賛同者数	600万人以上
「COOL CHOICE」の賛同団体数	40万団体以上
クールビズ実施率	家庭部門: 86.5% 業務部門: 83.1%
ウォームビズ実施率	家庭部門: 88.9% 業務部門: 82.9%
エコドライブ実施率	20%
カーシェアリング等実施率	0.73%

※1 テーマ内訳

【省エネ】省エネや節電手法、エコドライブ、環境家計簿、エコクッキング、うちエコ診断など 【温暖化問題】メカニズム、CO<sub>2</sub>排出実態、IPCCなどの知見、気候変化、影響、【環境教育】生物多様性、廃棄物問題、食育、健康など 【再エネ】太陽光、風力、水力、バイオマス、廃棄物発電など 【吸収源対策】森林保全、湿地保全など 【適応策】防災、ハザードマップ、農業など 【機器買替】省エネ家電、LED、太陽光発電、省エネ住宅、エコカーなど 【リサイクル】生ゴミ減量、リサイクルなど

※2 出典) 環境省 地球温暖化対策のための国民運動実施計画 [http://www.env.go.jp/seisaku/list/ondanka/plan\\_h2808v.pdf](http://www.env.go.jp/seisaku/list/ondanka/plan_h2808v.pdf) (最終アクセス: 平成28年9月30日)

# 低炭素杯2017開催!

「低炭素杯」は、学校、市民活動団体、企業などが行う温暖化防止活動の中から特に優れた取り組みを表彰するもので、平成22年度から開催されています。7回目にあたる今年度はアンバサダーにさかなクンを迎える、「市民部門」、「企業部門」、「学校部門」、「自治体部門」の4部門を設けました。

現在選考委員会にてファイナリストを選考していますが、今回も全国各地からたくさんの素晴らしい活動の応募がありました。平成29年2月、選ばれしファイナリストが集結し、全国各地域の地球温暖化対策のモデルとなる取り組みをプレゼンテーションします。

環境大臣賞、文部科学大臣賞に輝くのはどの団体か？全国の知恵と技をぜひ会場にてご覧ください。皆様のご来場をお待ちしています。

低炭素杯2017について

日 程 平成29年2月16日(木)

会 場 日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル)

入場料 無料(登録制：詳細は低炭素杯2017ウェブサイトでお知らせします)

主 催 低炭素杯2017 実行委員会(事務局：地球温暖化防止全国ネット)

表 彰 特に優れた活動を行う団体、企業に対する表彰は環境大臣賞としてグランプリ(1団体)、金賞(各部門から1団体、計4団体)を授与し、文部科学大臣賞には社会活動分野と学生活動分野から選ばれた団体に(各1件、計2団体)を授与いたします。  
また、企業/団体賞の授与も予定しています。



低炭素杯2017アンバサダー  
さかなクン

低炭素杯2017に関する詳細は → → → [低炭素杯2017](#)

検索

## うちエコ診断で家庭部門における一層のCO2削減を！

環境省のうちエコ診断制度が本格的に運用され始めて3年目となる平成28年の夏、第3回目の資格試験を実施しました。9月末現在、992名(平成25年度からの資格移行者含む)の診断士がうちエコ診断実施機関に登録いただき、診断にあたっています。

昨年度(平成27年度)のうちエコ診断の成果より、受診世帯におけるみなしCO2排出量の削減量(事後調査票回収分の2,777件)は、約3千t-CO2/年となっており、一世帯当たりでは、約1t-CO2/年となっていました。また、これらを世帯人数別に見ると、みなし削減量およびみなし光熱費の削減量はそれぞれ右図のようになっており、世帯人数にほぼ依存する傾向となっていました。

また、うちエコ診断実施機関数も、地域センター・自治体・民間企業合計で84機関(9月末)となっており、全47都道府県でうちエコ診断の受診が可能となっています。

今年度、環境省は集団診断を推進しており、環境省の職員、自治体の職員、民間企業の従業員の方に積極的に受診していただく様に推進活動を行っています。さらに、民間企業の集団診断においては、地域センターと協働で診断を行うなどの連携も始まっています。



大阪での集団診断における協働風景



神奈川での集団診断における協働風景

表1 資格試験合格者数と受験者数の推移

試験実施年度	合格者数	受験者数
平成26年度	359人	1,071人
平成27年度	313人	982人
平成28年度	315人	655人
合計	987人	2,708人

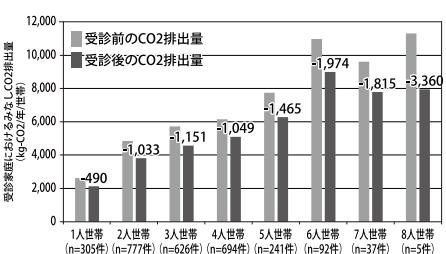


図1 平成27年度事業における診断前後の受診家庭におけるみなしCO2排出量

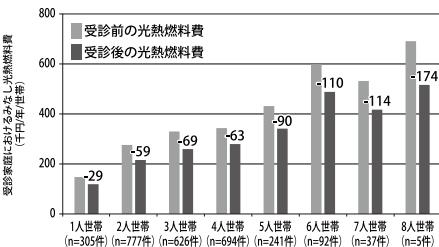


図2 平成27年度事業における診断前後の受診家庭における光熱費使用状況

うちエコ診断制度に関する詳細は → → → [家庭エコ診断](#)

検索

# 地域センター推進員研修に全国ネットスタッフが参加しました

## 関東ブロック推進員等合同研修会

日 時：平成28年8月31日(水)～9月1日(木)

テーマ：推進員及び地域センターの活動手法等の情報共有と推進員のスキルアップを図る。

活動手法等の情報共有と推進員のスキルアップを目的に、各地域で活動する推進員55名、地域センター職員24名の合計69名が参加しました。

1日目は、各センターの推進員支援体制、推進員活動事例の報告後にポスターセッションを行い、お互いの活動についてさらに理解を深めました。

2日目は、(株)みずほ情報総研の藤原和也氏によるコミュニケーション手法についての基調講演後にワークショップを開催しました。参加者は3つの分科会テーマに分かれ、地域センター職員のファシリテーターにより作業を行い、最後にそれを全員で共有し、終了となりました。



## 中国・四国ブロックスーパー推進員研修

日 時：平成28年9月6日(火)～9月7日(水)

テーマ：「実践活動に学ぼう、そして、もっとつながろう～地域の実践活動に学び、つながりを強めよう～」

スーパー推進員と銘打っているだけあり、推進員の皆さんの環境問題、温暖化問題に対する情熱、普及啓発の経験、講座の内容や話し方等全てにおいてハイレベルな方々が集いました。

各地域の推進員63名、地域センター職員18名、合計81名が参加し、さらに推進員として磨きを掛けようと熱気に包まれた研修になりました。

2日間しかないスケジュールを濃密なものにするため、非常に練られたプログラムになっており、1日目は分科会形式で興味のある事例発表巡り、2日目は意見交換と共有、振り返りをし、自らの普及啓発のプランを実現可能な形にするワークショップを行いました。



エコアナウンサー

## 櫻田彩子のミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール  
Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。  
テレビ朝日「じゅん散歩」レポーターほか、「低炭素杯」の司会など。



笑ってください、この私！インターネットラジオにベビーカーの娘連れて出演させて頂いた時です。ドタバタかあちゃんは汗だくで手ぬぐい首に巻き、整える余裕のない髪を帽子で隠し、抱っこで太くなった腕もお構いなし。ひどいもんです(この日はましな恰好です、苦笑)。小さな娘を相手に下ばかり向いているせいか猫背で腰痛肩こりにぜい肉。ひゅ~、いかんいかん。

先日お会いしたウォーキングの先生曰く、「ついつい楽な姿勢でいると心身ともに下降傾向に。胸を開いて、スピードを上げ筋肉を使う燃費の悪い歩き方をすると自然に良い心と体が出来てくる」と。それを聞いて、ハッとした。今しかない小さな娘との日々を思いっきり満喫し、髪をふりみだしての家事・仕事・育児の生活も楽しまなきゃ損ですよね。よ~し、この秋は、家の電気は省エネ、私のたまたま脂肪は燃費悪く燃焼させるぞ~！



ワッショイ秋祭り

## 編集後記

私の故郷である埼玉県熊谷市は、「暑さ対策日本一」を掲げて暑い街ならではの取り組みを推進しています。

環境省を始め全国の企業・行政・民間団体による熱中症予防を推進する運動「熱中症予防声かけプロジェクト」主催の「ひと涼みアワード」において、最優秀賞やトップランナー賞を何度も受賞しています。

「クールシェア推進事業」「まちなかオアシス事業」等、環境省が推進する「COOL CHOICE(賢い選択)」に繋がる地域の特性を活かした取り組みは、きっと多くの地域でも実践可能なアイデアではないでしょうか。

日本の「2013年度比26%削減」の目標達成はまだ遠くにありますが、効果的な施策やアイデアが共有され、地域の取り組みが活性化することで、一歩ずつ目標達成に向けた歩みを進めていかなければ、と考えています。

そのために、地域センター及び全国センターの情報共有や連携がより一層重要となるのは間違いないありません。

「現場を持ち、地域を知る」皆さまのご指導ご協力をこれからもお願いしたいと思います。

総務Gr 主幹 飯田 裕己



【編集・発行】

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット(JNCCA)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3

第一アマイビル4階

TEL : 03-6273-7785 FAX : 03-5280-8100

<http://www.zenkoku-net.org/>

